

# めでる



「善水寺・鐘楼堂(湖南市)」

2 特集

滋賀医科大学

「学内で地域医療の体験ができる」

課外授業シリーズ1~5

Contents

13 地域自慢

焼き物のまち 信楽

18 滋賀医科大学50周年

14 紹介

里親学生支援室

20 編集後記

16 紹介

滋賀県医師キャリアサポートセンター  
／先輩医師との懇談会

## ■ 特集 「学内で地域医療の体験ができる」 課外授業シリーズ

2021年5月27日(木)

## 課外授業シリーズ第一弾！の報告

浅井東診療所 所長 松井 善典

「地域医療は現場に来ないとわからない!?」「診療所の事例や臨床経験は大学内ではできない!?」そんな意見や疑問に答えようと、滋賀県の診療所の指導医を中心に滋賀医大の学生向けの課外授業を計画しました。

2021年5月27日(木)に開催された第一弾の報告です。「リアル臨床推論」と題し、地域医療の現場や診療所ならでは事例を、学生さんと一緒に追体験する双方性の講義を提供しました。第一弾の講師は「関西家庭医療学センター」という長浜市の浅井東診療所を基幹施設として京都や大阪で研修している専攻医の成瀬瞳先生(滋賀医大34期生)と指導医の松井(同大25期生)のペアで行われました。

授業ではそれぞれの楽しい学生時代の写真いっぱいの自己紹介のあとに、医師のライフワークとしての臨床推論について2つの側面「病気の診断」と「患者の理解」について解説がありました。続いて高血圧の診断のあとに薬を飲む気がなく民間療法で治そうとする患者さんについての紹介が成瀬先生からありました。「あなたならどうする?」という問い合わせとともに、「なぜここまで薬を拒否するのか?」についての仮説についても推論を行いました。そしてその患者さんの人生史を紐解き、医療への否定的な経験の理解を深めていきました。そして次の問い合わせが「患者の理解」の推論に非常に大切な瞬間を生みました。それは「では、なぜ医療に否定的な薬を飲みたくない患者さんが診療所にやってきたのか?」「何を求めて医師の前にいるのか?」という問い合わせです。その答えには患者さんが地域の診療所に求めている大切な役割がありました。

複雑な病態生理が絡んだ症候や疾患の状態「病気の診断」には時間がかかるように、長い歴史を生きながら私たちの想像もできない生活や思考を持つ「患者の理解」にも、粘り強い関わりや親切なコミュニケーションが必要となります。その鍵として「歴史と価値観」があると、成瀬先生が研修中の本音を語りながら患者さんを紐解いていく様子がよく理解できる進行でした。そして同時に患者さんも心を許して語りを進める時間も共有され、一緒に患者さんを診察しているような追体験をすることができました。

つづいて数多くの病気を持ち慢性の痛みがある高齢女性の患者さんの紹介がありました。「全身の痛みの原因は?」とちょっと難易度の高い問い合わせから始まり、家庭医療の専攻医が立てるプロブレムリストと一緒に考えながら授業が進みました。そして「どうマネジメントする?」という臨床推論でいうマネジメントの推論も行い医学的な理解を深めていきました。しかし、その患者さんが「早く退院したい」と言い出します。そこで「患者の理解」の問い合わせができます。「なぜこの患者は退院したいのか?」です。家庭医・総合診療医は医学的な正しさよりも、医療的な適切さを優先することがある、そのためには患者さんに対して敬意をもって無批判に接し、関係を築いて、共に悩み共に考える姿勢を教えられます。患者の「歴史と価値観」を理解した成瀬先生が、視野の広いプロブレムリストを作り直し、多職種でのカンファレン

## 特集 「学内で地域医療の体験ができる」 課外授業シリーズ ■

スを繰り返し、在宅医療のサービスと環境を作り上げる経過、そして穏やかな在宅看取りまでを追体験できました。

最後にまとめとして、松井から「その人を知ると医師はどうなるのか?」という解説がありました。診断や治療は医学的な推論から生まれますが、全人的な推論からは本質的でリアルな「みたて」と「てだて」が生まれます。「みたて」にはミクロ・マジ・マクロの広い層と過去・現在・未来という時間軸があり、「てだて」には医師の声の掛け方や振る舞いの工夫から、多職種アプローチのわざ、医療資源の活用など幅広いケアの選択肢があると紹介しました。医学的な診断が白黒をつけるモノクロだとすると、全般的な診断は彩りのある生活やカラフルな人生のためのケアに必要なスキルです。家庭医療学では様々な研究テーマがありますが、家庭医の臨床推論については近年深い理論ができつつあり、今ホットなテーマになっており、最後にその紹介がありました。

以下、参加者からの感想です。

- ・事例を通して、治すことが全てではなく、どう生きたいかをサポートすることが重要であることがわかった。
- ・患者さんの医療体験や健康観を知ること・理解することが、全的に理解するまでの鍵となる。
- ・薬を拒否する患者様にどう対処するか、時間をかけて向き合う先生方に、薬剤師も何かしらお力添えできたらと思いました。
- ・患者さんの話を聞けば聞くほど患者さんが本当に求めているものにたどりつけ、そのためのコミュニケーションが大切だということ。
- ・患者さんの要求しているものは何かという命題は医療において最も基本的なものでありながらも、日々の診療で見落とされがちなもののかもしれないと感じました。
- ・衝突の原因を相手に見出すのではなく、あくまで自分の関わり方を問題とし、お互いにとってよりよい道を探していくというのが新鮮でした。医学的に最善のことが患者さんにとって最善とは限らないということを高学年になるにつれて忘れていた気がします。多面的に患者さんを診るために、様々なことに関心を持って、幅広い視点を持つ重要性を改めて感じました。
- ・両先生が、臨床の楽しさだけでなく、辛さまで包み隠さず、話してくださったことです。きれいごとや自慢話ではなく、生の苦悩、さらに、困難に立ち向かう医師としての使命感が心に残りました。
- ・全般的な臨床推論として、看護師との協働も歌っていたところがうれしかった医師は患者さんに治療法を説得するだけではないということが印象に残った。

## 講師紹介

浅井東診療所 所長

**松井 善典**



淀さんせん会 金井病院 総合診療科

**成瀬 瞳**



## ■ 特集 「学内で地域医療の体験ができる」 課外授業シリーズ

2021年7月6日(火)

## 課外授業 第二弾 報告 -医学生・看護学生に向けた人文社会科学教育の可能性-

浅井東診療所 副所長 宮地 純一郎

地域医療について、「生活に近い場所で行われる医療」や「人間の病気と価値観／生活の両方を理解しながら行う医療」というイメージを持っている方は多いと思いますが、具体的に生活の近い場所で行われる医療とはどのような医療なのか、人の価値観や生活を診断・治療・看護といった医療行為を進めながらどうやって理解すれば良いのか、そのような点について、土台となる学問を踏まえながら学ぶ機会はなかなかないのではないでしょうか。

実際に、体内で起こる現象の分析や、それをどのように臨床医として調査・介入するかについて学ぶ際には基礎医学や臨床医学の専門分野の知見を踏まえながら詳細に学ぶのに比して、人間が病気を持つことによってその考え方・営み、周囲の人々や社会との関係がどのように変容するのか、医療者としてそうした変化をどのように臨床現場の中で情報を収集し、理解し、手を加えるのが良いのか、について学問や知見を踏まえながら学ぶ機会はまだまだ少ないので現状です。

そのような学問群として人文・社会科学分野が着目され、医学部の授業に徐々に取り入れられつつあります。この課外授業で取り上げた医療人類学もその一つで、人間の病気と、日々の習慣的な営み、周囲の人間関係は互いにどう影響し合うのか、病気や症状を持った人は医療制度や医療者にどのように巻き込まれていくのか、さらには医療制度や社会の仕組みが医療者と病む人の両方にどのように影響するか、などといった点について分析や理解を広げている分野です。その土台には文化人類学という人々の生業に直接立ち会いながら研究を行う分野があり、文化人類学者は世界中の日本を含めた様々な社会で病人や医療者の生業を調査し、知見を集積しています。

本講義はWeb講義でしたが、文化人類学の基本的な調査の考え方を紹介した後に、参加した医学生や看護学生が将来出会いうる地域の医療現場での架空の患者さんの言動について、理解や対応を考えてもらう時間を講師と参加者の間で双方向のやりとりを挟みながら持ちました。更には事例の解説として、人間が社会の中で病んだ時の行動や生活への影響を理解するための理論や知見として、Arthur KleinmanやByron Goodといった古典的な医療人類学者の調査を元にしながら、病気・疾患・病いの違い（図1）、説明モデル、語りによって形作られる病い体験の基本的な特徴について初步的な解説を行いました。Web講義でしたが、参加した学生の考え方や分析について講師がその都度コメントしたり、質問について研究と臨床医としての経験を踏まえて答えながら、深い議論を行うことができました。

社会科学の考え方や分析方法を具体的な架空の事例に基づいて伝える形式の授業は国内でもまだまだ少ないですが、生活と病気が相互に関わり合う状況で医療に携わる可能性が高い地域枠の医学生にとつては現場で求められることに直結した内容であり、このような機会が全学年にわたって取り入れられることが望ましいと考えます。ひいては、そのような分野の基礎を学んだ地域枠の学生が新しい地域医療

## 特集 「学内で地域医療の体験ができる」 課外授業シリーズ ■

ならではの研究方法や研究分野を切り拓くことに期待します。

加えて、近年、医療人類学をはじめとした人文・社会科学を臨床に直結した課題と結びつけて教育することは、地域医療のような場面だけでなく、医学一般において、複雑になり続ける医療制度と社会状況の中で、目の前の一人一人の患者に対応する能力の向上に貢献しうることが医学教育研究から明らかになっています（脚注1）。2019年に始まった未曾有のパンデミックは、未知の状況の中であっても、医療者が手元のリソースと社会からの要請の間で新たな解決策を生み出す力を持つことの必要性を知らしめました。今後も医療者は、迫り来る様々な未知の中で新しい問題を見出し、解決策を創り出し続けることになるのは間違ひありません。こうした創造と変化を率先できる人材を育てるに、人体の仕組みだけでなく、社会の仕組みについての洞察と理解を得る機会が重要であり、本講義のような生物医学の外側の人文・社会科学の学問を臨床上の問題と結びつけて伝える機会が今後さらに取り入れられていくことに期待したいと思います。

脚注1：詳しく知りたい方は 1. Chaudhary ZK, Mylopoulos M, Barnett R, et al. Reconsidering Basic: Integrating Social and Behavioral Sciences to Support Learning. Academic Medicine. 2019;94(11S):S73. doi:10.1097/ACM.0000000000002907を参照。

図1

## 古典的な医療人類学における病気の3つの側面

- ・病気(Sickness) : 体調の悪さ 全般を指す言葉
- ・疾患(Disease) : 生物医学に基づいた病気の説明と分類
- ・病い体験(Illness) : 病気になった人が感じる痛みをはじめとした経験、それに伴った日常的な生き方



### 講師紹介

浅井東診療所 副所長

**宮地 純一郎**



Zoomファシリテーター 浅井東診療所 所長

**松井 善典**



■ 特集 「学内で地域医療の体験ができる」 課外授業シリーズ

## 課外授業シリーズ第三弾 地域医療で働いてみると～1日働く疑似体験～

医療法人社団 弓削メディカルクリニック  
滋賀家庭医学センター 本部長

中村 琢弥

### 地域診療所で働くということ

学内にいて地域医療を体験する

2021年10月14日

医療法人社団 弓削メディカルクリニック 滋賀家庭医学センター  
中村 琢弥 西田 早矢 浦山 守



滋賀家庭医学センター  
Shiga Center for Family Medicine

この度、2021年10月14日（木）に滋賀医科大学の課外授業として、現場の若手医師から学生の皆様に向けて地域医療をテーマとした学習の場を開催したことを報告します。

こちらは、実際の地域医療の様子を知る機会が少ないという大学内からの声を受けて、滋賀医科大学を舞台に、医学看護学教育センターと滋賀県医師キャリアサポートセンターの共催を受けて、2021年度にシリーズ開催されることになった企画です。今回報告させて頂く10月の部はこの企画の第3回にあたるものとなります。今回は、講師派遣依頼を受けました日本プライマリ・ケア連合学会滋賀県支部から抜擢にて、滋賀県竜王町にある弓削メディカルクリニックを統括施設としている「滋賀家庭医学センター」に所属する専攻医「浦山守医師」をメイン講師に迎え、同センターのチーフレジデントである西田早矢医師による司会、そして、同センター指導医である私中村をアドバイザーに据えての複数講師による会合となりました。開催は、世の中の感染状況も踏まえまして、現地開催（感染管理に配慮した対応実施）とTV会議システム利用によるハイブリット型開催（後日の録画視聴も可の体制を整備）としました。

2021年度はコロナ禍を受けてそもそも学生の皆様が地域医療の実際を体験することが非常に難しいという特徴的な状況となっていた背景を受けまして、講師陣としていかに地域医療というテーマを上手く伝えるかを事前検討した結果、専攻医である浦山医師が現在体験している地域での医療の様子を自身の視点を中心に伝えて頂くこととしました。浦山医師は2021年度より同センター統括の総合診療専門研修プログラム（専門医認定機構主催）および新家庭医療専門研修プログラム（日本プライマリ・ケア連合学会主催）の両教育プログラムコースに基づいて、滋賀県北部に位置する無床診療所である「にしあざい診療所」での研修を行っています。同地域は人口4000名程度の田舎に位置する地域でその地域の風景の美しさの紹介や医療としての特長をデータや写真を用いて紹介し、実際に若手医師である浦

## 特集 「学内で地域医療の体験ができる」 課外授業シリーズ ■

山医師の目にうつる現場の様子を、臨場感をもってレポートして頂きました。それらを受けて、浦山医師が考える地域医療や診療所の機能についての考察を加えて語って頂きました。例えば、日本には非常に多くの診療所が存在しており、学生の皆様が経験する病院での医療と同等以上に多彩な背景をもった患者が日々来訪していること、高齢化社会を受けての看取りや多様な医療ニーズの増大に対して応える最前線の立ち位置になっていること、日本の診療所の多くが「一診療所につき一医師」になっており、そのことによる難しさや限界が確かにあること（なお、にしあざい診療所は教育機能も含めて指導医とともに活動できる複数医師体制のグループ診療制を採用）、診療に際して「病気」をみているというよりは「病気をもった人」をみている感覚が確かにあること（そしてそのことに大きな意義を感じていること）、などが紹介されました。そして上記を受けて、最後に実際に浦山医師が地域医療の中で経験した実症例をベースとした経験も学生との対話セッションも挟みながら展開されました。質疑応答の時間では、複数の学生の方から多くの質問（総合診療に進むことについてのキャリア相談や、地域での医療のさらに子細にまつわる内容など）が行われ、盛会のうちに終了しました。

会合後の事後アンケートでは、ほぼ全ての参加者から「非常に好評～好評」の評価を得ることができました。具体的な感想として、「最先端の医療や機器だけが人を癒やすのではないという言葉がとても刺さりました。医療の道をすすむうえで、何が人を癒やすのかを考え続けていきたい」という言葉を頂くなど好感触だったと考えられます。本会はシリーズ開催が予定されており、今後も学内における地域医療に触れる機会を多数もって頂くことを考えて頂いているとお聞きしており、今回担当させて頂いた我々としてもとても大学のこれから歩みが楽しみです。



## 講師紹介

医療法人社団 弓削メディカルクリニック  
滋賀家庭医療学センター  
教育部門担当指導医・本部長

中村 琢弥



医療法人社団 弓削メディカルクリニック  
滋賀家庭医療学センター

浦山 守



医療法人社団 弓削メディカルクリニック  
滋賀家庭医療学センター  
独立行政法人国立病院機構 東近江総合医療センター 総合内科医

西田 早矢



## ■ 特集 「学内で地域医療の体験ができる」 課外授業シリーズ

## 課外授業シリーズ第四弾! 男性も知っておきたいウィメンズヘルス

大津ファミリークリニック 院長 中山 明子

2021年11月22日（月）「ウィメンズヘルス」についてお話ししました。

私は、岡山大学を卒業後に京都市の洛和会音羽病院で初期研修をし、千葉県の亀田総合病院にて後期研修を修了しました。2014年より大津ファミリークリニックに勤務し、「子どもから高齢者まで家族全員のケアを」をモットーに診療を行っています。また、思春期の子どもたちや妊娠・授乳中の女性の診療にも力を入れています。

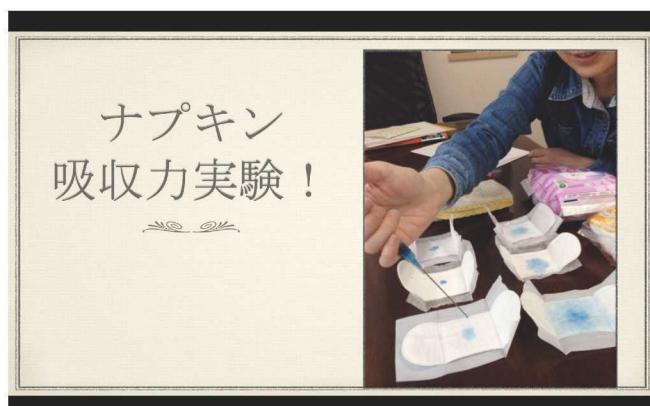
今回は、以下のテーマで講演の準備をし、事前に案内をしていました。

- ・普通の月経？受診したほうが良い月経？あなたは答えられますか？
- ・月経の基本と、月経との上手い付き合い方をご紹介します。
- ・これを聞くと男性も女性も周りの女性に優しくなれるハズ！

さらに講演の最初に、上記以外にも多くのテーマを御提示し、学生にレクチャーテーマをその場で選択していただきました。特に、男子学生に対して呼びかけていたために、当日は、男子学生が中心でした。

参加者は11人（うち10人男子学生）で、選ばれたテーマは「月経」「思春期医療」「若年の性行動（包括的性教育）」の3つです。

「月経」ではレクチャーだけでなく実験を行いました。ナプキンやタンポンだけでなく、おるものシートや月経カップも実際に見るだけでなく、吸収実験を行いました。月経中の苦労や工夫をおりませて話すと、女子学生はこんなに男性が月経について知らないのかという気づきにもつながりました。



「思春期医療」は思春期特有の症状や訴え方、子どもたちが抱える課題についてレクチャーしました。

「若年の性行動（包括的性教育）」では日本の性教育の現状を話しました。日本では小学生での二次性徴、中学生での避妊や性感染症が教育指導要項に入っていますが、20年以上変わりありませんでした。世界ではWHOが定める国際セクシュアリティ教育ガイドラインに基づき、人権、文化、セクシュアリティ、ジェンダー、

## 特集 「学内で地域医療の体験ができる」 課外授業シリーズ ■

暴力、コミュニケーションなど多岐にわたる「生き方教育」を幼少期から行なっています。日本でも今後、これらが導入されることを期待しています。

終了後、全員残って30分以上質問の嵐でした。私が込めたメッセージは、性別問わず周りに優しくなる日本を作ろうということです。貴重な機会をいただきありがとうございました。

### Take home message

専門医にコンサルトした方がいい月経の異常

- ①初経が高校生になっても来ない
- ②無月経が3ヶ月以上
- ③貧血をおこすくらいの過多月経
- ④不正性器出血

### 思春期診療キーワード

1. 不定愁訴
2. 自立と依存
3. Self esteem (自尊心)
4. Ambivalent (アンビバレン特：両価性)
5. ダブル・メッセージ
6. 秘密
7. Transition (移行)
8. 受診のニーズ

### 講師紹介

大津ファミリークリニック 院長  
(家庭医・総合診療医)

中山 明子



■ 特集 「学内で地域医療の体験ができる」 課外授業シリーズ

## 課外授業シリーズ第五弾! 開催報告

弓削メディカルクリニック

喜多 理香

# 「学内で地域医療の体験ができる」 課外授業シリーズ第五弾！

2022/01/20@滋賀医大

へき地にロマンは埋まっている  
あなたはロマンを探せますか？

弓削メディカルクリニック

喜多 理香 雨森 正記



滋賀家庭医学センター  
Shiga Center for Family Medicine

2022年1月20日、滋賀医科大学において、「へき地医療」をテーマに講演を行ったため報告いたします。

同日は、5名の医学生と1名の医師、その他数名のスタッフが現地参加して下さり、オンラインでも5名以上の医学生が聴講して下さいました。医学生は4年生以上の高学年の方が大多数を占めました。その後約1ヶ月半、オンデマンド配信されます。

講師は、弓削メディカルクリニックをベースに滋賀県北部のへき地診療所でも勤務している私喜多と、上司にあたる弓削メディカルクリニック院長であり、同へき地診療所へ応援勤務をされている雨森正記先生の2人で担当しました。

まず、へき地医療について語るにあたり、基本となる「地域医療」「家庭医療」「在宅医療」について解説したあと、滋賀県のへき地医療の概要・知り得る現状を紹介しました。

私にとっては、2021年度から初めてへき地診療所において、1人でその日の診療を完遂する必要に迫られた訳なのですが、その任務を引き受けようと考えた経緯、引き受けようと思わせてくれたバックアップ体制についても、進路や将来に希望と共に心配もあるであろう医学生の方にお示しし、その時のリアルな気持ちもお話ししました。

滋賀県が医療保健計画として公表しているへき地医療の目指す姿には、まずは医師数の確保が挙げられ、目標は低めに設定されているようです。厳しい現実があるのは間違ひ無いかと思います。しかし、読み進めると医師数の確保と合わせて『総合的な診療能力を有する医師が求められる』と、医師の資質についても挙げられています。私が家庭医・総合診療医・在宅医として研修・診療してきた経験と知識と技術は、へき地医療において求められる能力に概ね合致したものでした。ですので、悩ましい時には適切に相談をしながら、「こんなに遠いところまで来てくれてありがとう」と言って下さる患者さんの二

## 特集 「学内で地域医療の体験ができる」 課外授業シリーズ ■

ズに合った医療を提供することを一番に考え、医師としてもへき地医療支援病院を車で10分の位置に持った小規模診療所における自分の振る舞い方を考え、さらには自分のスキルアップの場として捉える要素も十分にある勤務地で、私は楽しく働いています。以上が学生さんに伝わっていると非常に嬉しいです。

学生さんを対象とした講演だったこともあり、準備したプレゼンテーションでは小規模診療所の立ち位置やスキルアップについては触れていたのですが、学生さんからは「へき地では医師としての勉強が限られ難しいのでは?」という質問があり、それにお答えする形で、厳しい現実もある中、雨森先生を含めた先駆者たちが整えた道で、勉強と臨床を両立する方法とその意義を、私なりに、また実際にそこに尽力された雨森先生から伝える機会にもなりました。

そして、今回のテーマであるへき地医療の口マンについて話すにあたり、現地参加してくださった医学生の皆さんに『なぜ医師を目指したのか?』を伺いました。個々に熱い思いを共有して下さいました。その素敵な思いをどう形にすれば良いのか…。私自身、医師になりたての大病院で急性期医療に触れていた時に、かなり悩んだ経験がありました。私のしていることは本当に目の前の患者さんの役に立っているのだろうか?患者さんの家族は困っていないだろうか?社会的な意義は本當にあるのだろうか?



へき地診療所は、高齢化の進んだ社会において安定した状態の高齢患者さんを診ることがメインとなると思います。しかし、遠くない未来に状態の変化が必ずやってきます。診療所では完遂し得ない医療が必要とされる時には、普段の状態を知っている診療所主治医が、医学的にも社会的にも必要な情報を病院へ提供し連携することにより、スマートな医療が提供できます。また、医学で治し得ない加齢という変化における医療は、介護から看取りまで様々な役割での医師の関与が必要です。このように高齢者においては、安定している時にいかに患者さんと医師が関係性を構築しているかがその後の医療の道標となり、ひいては患者・家族の意向に添った医療の提供につながります。その役割を担っている実感が、私にとってはへき地医療の口マンの一つであると紹介しています。

また、私たちのへき地医療支援は、私のような臨床経験が10年前後の医師が、研修で培った能力を発揮して臨床をこなし、雨森先生が、私やその後任のための医療現場を作り整えて成り立っており、その過程についてもお話ししています。

今回の講演が、学生さんの地域医療の学びの場となれば幸いです。

## 講師紹介

医療法人社団 弓削メディカルクリニック  
滋賀家庭医療学センター 理事長

**雨森 正記**



医療法人社団 弓削メディカルクリニック  
滋賀家庭医療学センター 指導医

**喜多 理香**



## ■ 特集 「学内で地域医療の体験ができる」 課外授業シリーズ

## 「学内で地域医療の体験ができる」 課外授業シリーズを受講した印象

滋賀医科大学 副理事(基礎医学・地域医療教育担当)  
医学・看護学教育センター 教授

向所 賢一



滋賀医科大学は、「地域に支えられ、地域に貢献し、世界に羽ばたく大学として、医学・看護学の発展と人類の健康増進に寄与する」という理念のもと「滋賀県の医療人育成」と「滋賀県の地域医療の発展」による社会貢献をミッションとして地域医療教育に取り組んできました。幸いなことに滋賀県には、地域医療教育に熱心で、家庭医（総合診療医）としてご活躍中の先生方が多数おられます。その先生方にお願いし、2021年度の新たな企画として、滋賀医科大学医学・看護学教育センターと滋賀県医師キャリアサポートセンターの共催にて、「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズを滋賀医大にて全5回開催させていただきました。私もすべてを楽しく拝聴させて頂き、大変勉強になりました。各講義は、対面ないしZoomによる遠隔でのライブ配信以外に、オンデマンドでも後日に配信させて頂き、非常に多くの方々に参加していただきました。2021年度はCOVID-19の感染拡大もあり、本企画を開催させて頂きましたが、参加していただいた皆様からのアンケート結果も非常に好評でしたので、2022年度以降も続けていければと思っています。ご期待ください。

拝聴させて頂きながら、感じておったのですが、ご講演頂きました先生方には共通点がある様に思えます。1) 病気だけでなく、もっと大きく、人（患者さんの価値観や生活）、そして地域までも診ておられる。2) 非常に「教育熱心」である。3)「思いやり」があり、非常にやさしい。以上の3点です。日本医師のプロフェッショナリズムを表す言葉に「医は仁術」があります。「仁」は「思いやり」と訳されますが、白川静氏によると「仁」の「二」は敷物の意味だそうです。ヒト（にんべん）が相手に敷物（座布団）を出す際に、1枚でなく2枚差し出すと、その相手が床に直接座るよりも「なんとなく温かい」と感じる。この気遣いが「仁」のようです。思いやりがあり「医は仁術」を日頃実践しておられる先生方が家庭医なのだと思った次第です。



写真：一般教養棟と基礎研究棟（大学正門から撮影）

# 地域自慢

## ～焼き物のまち 信楽～

甲賀流忍者発祥の地として有名な甲賀市にある信楽は、多くの窯元を有する焼き物の里でもあります。

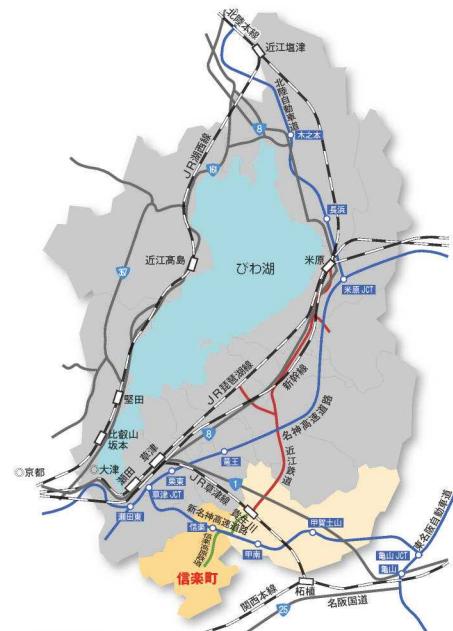
信楽焼は、「日本六古窯」中世から現在まで生産が続く代表的な6つの産地（越前・瀬戸・常滑・信楽・丹波・備前）の一つで、聖武天皇が紫香楽宮を作る時に、瓦を焼いたのが始まりと言われています。室町・桃山時代は茶器、江戸時代は茶壺、土鍋などの日常雑器、大正時代から戦前までは火鉢の生産が盛んになり、全国シェアの8割を占めていたそうです。過去にしがみつかず時代に合わせて需要を見極めていく粘り強さやしなやかさは、「売り手良し」「買い手良し」「世間良し」の『三方良し』をモットーにした近江商人にも通じるように思います。

滋賀県民にお馴染みの信楽焼きのたぬきが全国的に有名になるきっかけは、1951年（昭和26年）、昭和天皇の信楽行幸でした。沿道にたくさんたぬきの置物に日の丸の旗を持たせてお出迎えしたところ、大変喜ばれたそうです。

「をさなとき あつめしからに なつかしも しがらきやきの たぬき  
をみれば」

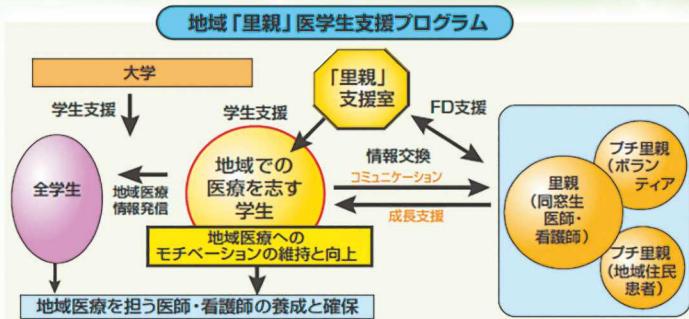
と歌に詠まれ、報道を通じて注目されるようになりました。

2019年9月（令和元年）～2020年3月（令和2年）には、NHK連続テレビ小説「スカーレット」が信楽を舞台に放送され話題になりました。伝統が息づく焼き物のまち信楽にはたくさんの魅力があります。窯元散策、ドラマのロケ地や観光スポット巡りをぜひお楽しみください。



文：滋賀医療人育成協力機構事務局

## 医学・看護学教育センター 里親学生支援室



里親学生支援室では、「滋賀県が好き」と自ら望んで地域の医療に関わる医療人の育成や、深刻化する地方の医師・看護師不足の解決を目指し、地域「里親」による学生支援事業の取り組みを行っています。

今回は里親学生支援室員の先生方を紹介いたします。



基礎看護学講座(形態・生理)  
教授 相見 良成

滋賀医大の医学科5期生です。1985年の卒業後は外科で研修し、その後、神経解剖学の研究を行い、2005年からは解剖学講座で教育・研究に携わり、2016年からは看護学科で解剖生理学を担当しています。

里親プログラムには当初から支援室員として参加しています。活動を通じて、特に宿泊研修からは、私自身が滋賀県の医療や文化について大変多くを学んできました。2020年4月からは里親学生支援室長を務めさせていただいている。



医学・看護学教育センター  
教授 向所 賢一

滋賀医大を平成6年に卒業後、外科医として約7年間京滋の病院で勤務。大学院入学をきっかけに、病理学講座でがん研究を行ってまいりました。令和2年11月に現職に就き、里親学生支援室員もさせていただいております。滋賀県には、地域医療教育に熱心な先生方が多数おられます。その先生方にご協力を仰ぎながら、微力ですが、次世代の地域医療のリーダーとなる良き医療人の育成に貢献できればと思っています。よろしくお願い致します。



公衆衛生看護学講座(訪問看護)  
教授 辻村 真由子

看護学科の辻村真由子と申します。2021年3月1日に、公衆衛生看護学講座内に訪問看護学領域を開設しました。本領域は全国の大学でも数少ない地域医療・訪問看護に特化した「地域医療実践力育成コース」を担当しています。当コースでは、実践的な訪問看護スキルの演習・実習などを行い、地域で活躍する看護職となるために必要な考え方、自立心を育てます。

地域医療や家族支援、地域共生社会にご興味のある方は、ぜひお声かけください。



生命科学講座(物理学)  
准教授 成瀬 延康

滋賀医大に赴任して6年目になりました。専門は物理ではありますが、様々なことに興味があるので、医療、農業から宇宙まで幅広い分野に対して物理工学的立場から様々な研究活動をしています。

滋賀に住むようになり感じるのは、滋賀県は、人口が増加している湖南と人口流出が続く湖北からなる地域であり、日本全国の縮図ということです。身近な地域医療の課題は、日本全体の課題と繋がっていると考えられるので、それらの理解を里親学生と共に一緒に深めたいと思います。



社会医学講座（衛生学）  
特任准教授 北原 照代

大阪府守口市出身、和歌山県立医大卒で、1992年に大学院生として滋賀医大に来てから滋賀県に長く住み着いています。主に「働く人たちの安全と健康をまもる」ことをテーマに調査研究をしています。里子の学生さんが、卒業後、滋賀県各地に根を下ろし地域医療に貢献されることが、「県民が地域で安心して健康に暮らしていくことに繋がる」と信じています。少しでも私にお役に立てることがあれば、委員として嬉しい思います。



情報総合センター  
准教授 本山 一隆

情報総合センターの本山と申します。2020年から里親学生支援室員をさせていただいている。私自身もまだ滋賀について知らないこと、行ったことのない場所がたくさんあります。私の専門分野は天文学や情報学で、医学が専門ではありません。里親学生支援室の活動を通じて、皆さんと一緒に滋賀のことや地域医療について学んでいければと思っています。滋賀医大の学生の中から、将来地域医療に貢献する人がたくさん出てくることを期待しています。



医師臨床教育センター  
腎臓内科  
特任講師 山原 真子

皆さん、こんにちは。医師臨床教育センター副センター長の山原真子です。腎臓内科医として臨床をしたり基礎研究をしたりしている傍ら、研修医の先生方との面談や、奨学金受給学生さんとの面談などを行っています。滋賀県医師キャリアサポートセンターの活動も行っており、この里親の活動を通じてぜひ皆さんと地域医療の発展を目指して、母校のある滋賀県の今後の医療を盛り上げていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。



小児科  
特任助教 中原 小百合

昨年から里親学生支援室員になった小児科の中原小百合です。普段は滋賀医科大学附属病院のNICUで早産の赤ちゃんや何らかの疾患をもった赤ちゃんの診療をしています。いろいろな治療を乗り越えて退院した赤ちゃんたちが自宅で家族と一緒に楽しく生活していくためには、地域の病院や保健師さんたちの協力が欠かせません。赤ちゃんたちは日々成長発達していきます。その中で必要な医療も変化していきますが、それにきめ細やかに気づいていけるのが地域医療の強みだと思いますので、地域の皆さんと協力した医療を作り上げていくことができればいいなと考えています。



臨床看護学講座  
助教 川原 瑞希

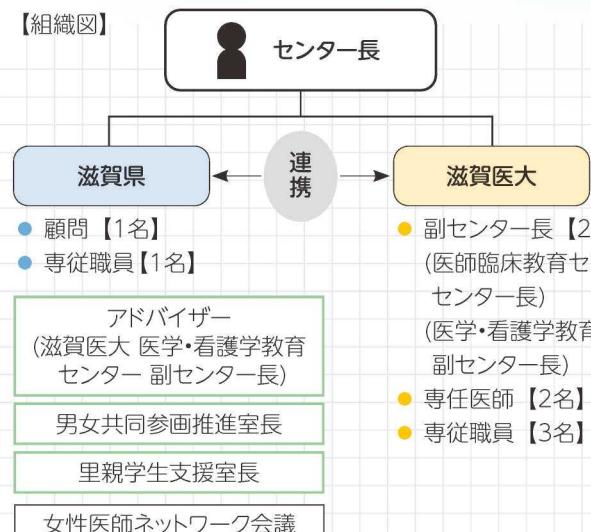
「めでる」をご愛読の皆様、はじめまして。2020年10月付で里親学生支援室員に着任いたしました川原と申します。所属講座では主に演習や実習を担当しております。どうぞよろしくお願いいたします。室員となって約1年が経過しますが、新型コロナウイルス感染拡大状況によって里親学生支援室における研修スタイルも大きく変わりました。より新しい、そしてより魅力的な活動を、地域の医療機関と共にに行っていきたいと考えております。

# 滋賀県医師キャリアサポートセンター

滋賀県医師キャリアサポートセンター(滋賀県地域医療支援センター)とは…

滋賀県の地域医療支援センターとしての機能を担っており、地域医療に従事する医師の確保・定着を図るため、2012年に県と滋賀医科大学が共同で設立した組織で、センターでは県奨学金貸与者の面談や、総合相談窓口設置による若手医師等の就労支援などに取り組んでいます。2020年4月から、キャリア形成プログラム策定と対象医師等の継続的なキャリア形成支援体制を強化しました。

【組織図】

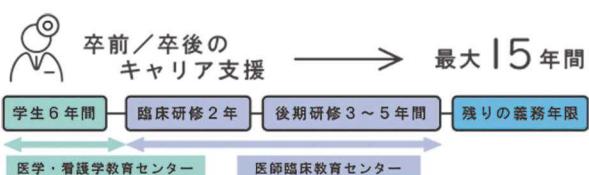


【事業内容】

- |   |
|---|
| ● 学生向け研修会・交流会・面談等の実施<br>● 若手医師のキャリア形成支援<br>● 女性医師ネットワーク会議運営<br>● 相談窓口の設置<br>● 医師、医学生向け情報発信<br>● キャリア形成プログラム案の作成 |
| ● 医師不足状況等の把握、分析<br>● 奨学金制度の検討<br>● 県奨学金貸与者への面談  |
| ● 医師確保の支援<br>● 奨学金貸付事業<br>● ドクターバンク事業   |

## 卒前卒後のシームレスな連携のため組織拡充

- 2020年よりセンター医師・職員を増員。
- 卒前／卒後でキャリアサポートを担当する教員および医師をそれぞれ配置。
- 年10回の運営会議を開催。県担当者、女性医師ネットワーク会議会長、滋賀医大男女共同参画推進室長、大学・病院事務担当者等が出席し情報共有。



### 卒前

#### 入学早期からの学生サポートの充実

学生の頃から現場で働く医師の話を聞く機会や地域医療の現場に触れる機会を作ることで、地域医療への興味を持たせる。

- 先輩医師から体験談とキャリア形成のアドバイスを聞く懇談会を年4回程度開催
- 学生と地域をつなぐ地域実習研修会・交流会を年2回開催
- 入学早期に県内3か所の地域医療教育研究拠点病院の病院見学を実施
- 地域医療をテーマに外部講師を招く課外授業を年5回実施（滋賀医大と共に）

### 卒後

#### 若手医師への充実したキャリア形成サポート

- 県内病院の医師充足状況を把握・分析したうえで、若手医師の県内基幹病院循環型研修（専門研修プログラム）を軸とした「医師キャリア形成プログラム」を県内に基幹施設がある全診療科で作成
- 若手医師および女性医師の復職を支援する相談窓口を設置
- 卒後も継続して面談を実施しキャリア形成支援  
※対象者125名（2021年度実績）
- 若手医師の縦と横の繋がりを強化するため、OB・OG会を設置

もっと詳しく▶ 滋賀県医師キャリアサポートセンター <https://www.shiga-med.ac.jp/~ishicsc/>



## 先輩医師との懇談会

医師としてのキャリアアップや、仕事を続けていく上での色々な悩みなどを相談できる場として開催しています。どなたも参加可能ですので、ご興味のある方は、ぜひご参加下さい。  
今年度からはZOOMも併用し、遠方からでも参加可能となっております。

2021年度  
第1回

### 地域医療のリーダーシップについて

松井 善典 先生（浅井東診療所 所長）

日 時：令和3年6月16日（水）18:00～

32歳で診療所の所長となり地域からの期待や注目を背負ってこられた松井先生が、これまでどのようなキャリアを歩んでこられたのかお話しいただきました。



- 参加型の会で楽しく聞くことができました。経営の裏側の深いところまでお話をあって面白く、参考になりました。
- 今までリーダーシップについて学ぶ機会があまりなかったので、今回の懇談会で医師に必要なリーダーシップやリーダーシップを身につけるためにはどのようにすれば良いかなど、貴重なお話を聞くことができて良かったです。



学生の感想

2021年度  
第2回

### 臨床・研究・留学 わたしのキャリアパス —滋賀で腎臓内科をしてみたら—

山原 康佑 先生（滋賀医科大学医学部附属病院 血液浄化部）

日 時：令和3年10月19日（火）18:00～

学生時代からはじまり、先生の人生の軌跡を笑いを交えてお話しいただきました。先生の少しでもみなさんへの役に立ちたいという熱意とおらかな人柄もあり、参加者のみなさまからも大変ご好評いただきました。



- 学生時代のお話をおもしろおかしく、腎臓内科のお話を分かりやすくしていただきありがとうございました。
- 先生のキャリアだけでなく、どのようなキャリアがあるかの選択肢を聞くことができて良かったです。
- 研究キャリアについて興味があり、非常に参考になりました。



学生の感想

## 2021年度開催の懇談会 来年度以降も継続して実施予定です！ぜひご参加ください！

**第3回 令和4年1月17日（月）18:00～**

テーマ：「人間万事塞翁が馬」

講 師：向所 賢一 先生

（滋賀医科大学 医学・看護学教育センター 教授）

**第4回 令和4年2月22日（火）18:00～**

テーマ：「滋賀で働く内科専攻医の履歴書」

講 師：鍬田 菜摘 先生

（公立甲賀病院 糖尿病・内分泌内科）

.....相談窓口も設置しています。詳しくはキャリサポHPをご覧ください。.....

お問い合わせ先 滋賀県医師キャリアサポートセンター

滋賀医科大学クオリティマネジメント課内（附属病院 4階）

住所：〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

TEL : 077-548-2826 E-mail : ishicsc@belle.shiga-med.ac.jp

滋賀医科大学は、2024年に  
**開学50周年**を迎えます。

50周年  
特設サイト  
に掲載

# 皆さまからの声 「Voice」大募集！

## 募集テーマ

滋賀医科大学にまつわる思い出、おめでとうメッセージ  
ありがとうメッセージ、今後期待すること …など

### 例



近所にある大学がどんどん発展しているのが嬉しいです。  
50周年おめでとうございます。もっともっと発展していってください。

大津市在住  
K.F.

### 一般の方



大好きな母校がどんどん発展しているのが嬉しいです。  
50周年おめでとうございます。もっともっと発展していってください。

〇〇学科 卒業  
滋賀太郎

### 卒業生

ご応募いただきました内容は確認の上「滋賀医科大学開学50周年特設サイト(2022年5月頃開設予定)」に適宜掲載させていただきます。

## 応募方法

＼ ご応募はコチラから ／



### 応募期限

2024年  
9月30日まで

<https://www.shiga-med.ac.jp/node/3164>



公式Twitterアカウントを  
開設しました



@shigaikadai\_pr

お気軽にフォロー  
ください！

開学50周年記念事業スローガン／ロゴマーク

湖国とともに、世界に羽ばたく  
医療のあゆみ半世紀、さらなる飛躍へ



お問い合わせ先

国立大学法人滋賀医科大学 総務企画課  
〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町  
電話:077-548-2012/FAX:077-548-8659

## 入会・ご寄附のご案内

皆様からの会費とご寄附金を財源として活動を進めてまいります。出費がかさむ折とは存じますが「地域医療を担う医学生看護学生の育成支援事業」にご支援いただける方々のご協力をお願いいたします。

### 会員は

会員の種類		会 費	入会金 (初年度のみ)
正会員	個人	年会費 2,000円 + 寄附金 3,000円以上	5,000円
	団体	年会費 5,000円 + 寄附金 5,000円以上	10,000円
賛助会員		毎年 1,000円以上 できましたら 3,000円以上	

ご寄附・賛助会費をご入金された方は「税制上の優遇措置」【寄附金控除、または寄附金特別枠控除（税制控除）】を受けることができます。

ご入金された方には「寄附金の受領書」を郵送しますので大切に保管いただき、確定申告時には、「申告書」に「寄附金の受領書」を添え最寄りの税務署にご提出ください。

なお、詳細につきましては、最寄りの税務署にお問い合わせください。

## 編集後記



新型コロナウイルス感染拡大による影響で、2020年3月から延期になっていた「滋賀県の医療と歴史・文化を学ぶ宿泊研修」を、3月17日滋賀医科大学里親学生支援室、滋賀県医師キャリアサポートセンターと共同で開催することになりました。前回までの宿泊ではなく日帰りの研修で、24名の医学生・看護学生が参加予定です。地域の医療機関を実際に訪問し、医療現場で働く先輩方と交流できる貴重な機会となります。

研修先の甲賀市・湖南市方面の医療機関や地域の皆様には、コロナ禍の中、多大なるご支援ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

次回は、夏に彦根市・米原市方面を訪問する予定です。地域の皆様どうぞよろしくお願いします。多くの学生さんの参加をお待ちしております。



## NPO法人滋賀医療人育成協力機構 広報誌「めでる」vol.19

発 行：2022年3月15日

編 集：NPO法人 滋賀医療人育成協力機構

所 在 地：滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学内

T E L : 077-548-2168

U R L : <http://www.shiga-iryo-ikusei.jp/>